

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム グース 1F		
所在地	函館市花園町24番3号		
自己評価作成日	令和4年2月11日	評価結果市町村受理日	令和4年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191400308-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを尊重し、日々の生活を穏やかに自分らしく過ごして頂ける様、スタッフ一同、日々意見を出し合い、相談し支援に取り組んでいます。
ここ2年ほどは新型コロナウイルスの影響で外での行事はできていませんが、落ち着いた際には、年間を通し四季折々の行事を楽しんで頂いたり、町内会の催しもの等に参加させて頂きたいと思っています。
また、健康維持のためリハビリ体操、歩行・立ち上がり運動など行っています。
食事に関しては、当グループホーム関連会社が配食産業の会社であり、ご高齢の方に最適な食生活を提供する事を責務としています。
全道各地に同グループの事業所があり、連携を取り合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ふれあいの里「グループホーム グース」は函館駅から車で20分程の距離にあり、周囲は市営住宅や戸建て住宅が並び、また、病院やコンビニエンスストアもあって利便性が高く、近くには小川が流れ公園も整備されている自然環境に恵まれた立地である。建物は鉄骨造り2階建てで、壁の色はベージュを基調とし、周囲の建物に溶け込んだ穏やかな佇まいである。事業所内はオープンキッチンから4畳半ほどの小上りのある居間兼食堂まで見渡せ、大きな窓からは五稜郭タワーも見える開放的な造りになっていて職員は寛いでいる利用者と会話をしたり、調理をしながら様子を見守っている。玄関や廊下、居間の随所にお雛様や季節の小物を飾って生活感や季節感を演出している。当事業所の優れている点は利用者の思いに寄り添った支援である。具体的には本人が希望すれば晩酌も可能である。毎夕食にノンアルコールビールを飲み、一日の締めくくりの楽しみ事として大切にしている。また、毎日浴槽に湯を入れて、いつでも入浴できる様に準備を整えるなど、利用者本位の支援に取り組んでいる。管理者は日頃から職員の態度や表情に気を配り、心配な時は声かけをして思いや悩み事も傾聴して、働きやすい職場環境づくりに努め、仕事への意欲をひき出している。職員は管理者の思いを受けとめ、より質の高いケアを目指して日々研鑽を積んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、個性を尊重し、地域との関わりやご家族様が信頼し安心して頂ける様に、敬愛を重視したサービス向上に努めていけるよう玄関や事務所、フロア内の目に入る所に提示し、スタッフ会議時等にも話し合うようにしている。	会議では理念を掘り下げて全職員で話し合い、ケアの統一を図っている。事業所内の目に付きやすい場所に掲示して家族や地域の方々とも共有し、利用者の個性を尊重し自分らしさを大切にしたい自由で伸び伸びと楽しい生活の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、面会や外出制限となり町内会の催しや保育園園児、地域の方との訪問交流は難しいですが、今後落ち着いた際には地域との関わりを大切にしていこう。	感染症対策のため以前の様に積極的な交流は自粛しているが、開設当時から盆と暮れには近所やお世話になっている方へカレンダーとメモ帳を持って挨拶まわりをして地域との関わりが途切れない様に努めている。町内会の婦人部よりオムツやウエスの寄贈も継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの際、町内会の方やご家族様に認知症の方についての日常に出来事の報告や勉強会、避難訓練などに参加して頂いていましたが新型コロナウイルス感染防止の為開催が難しく、施設内のご様子をお便りを通して報告させて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開催し、ご家族様や町内会、地域の方々のご意見やご提案をサービスの向上に繋げている。	運営推進会議は以前のように一堂に会しての開催は無理であるが、年6回書面にて事業所の行事報告や入居・退去、事故、ヒヤリハットなどを纏めた会議議事録を家族や行政、地域包括支援センター、町内会長宛に送付して	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や保健所などで行われている研修等に積極的に参加し、研修内容を職員全員で共有しケアの取り組み、サービス向上に活かしている。	市の担当者とは提出書類の作成方法や使用書式の確認など、些細な事も気軽に相談してアドバイスを受けている。地域包括支援センターには利用状況などの情報交換を密にし、ケースワーカーとは電話で状況確認を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に拘束かどうかを考え、入居者様の安全において必要と思われる時にはご家族様の同意を頂いている。	年4回委員会を開催し、更に年2回担当職員が中心となって事例検討など資料を作って勉強会を行い、議事録を作成して全職員で共有し運営法人本部にも結果報告をしている。新人研修でも身体拘束をしないケアをしっかりと勉強している。また、身体拘束禁止11項目は廊下に掲示して、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修には、新型コロナウイルスに伴い参加できていないが、日々の申し送りや、会話の時に虐待につながっていないか注意を払い、内部研修やスタッフ会議時に年2回以上は勉強会を行い虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で学ぶ機会を持ち、必要な方には御家族様と連携し活用し、成年後見人制度を利用している方には後見人方と連携し支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約書等に関する内容を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の関わりの中から意見や要望を聞き、サービス反映に努めている。	家族からは訪問時や介護計画の更新時に意見や要望、相談ごとを聴き、集約して運営やケアに活かしている。体調の変化や嚥下機能の低下に伴い、本人や家族の意向を踏まえ食事形態などを全職員で検討して適切な対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は職員会議などで検討をし、運営に反映するようにしている。	定期的な面談は感染症対策のため休止しているが、管理者は毎日、朝・夕の申し送り時や職員の態度や表情に常に気を配り、変化がある時には声かけをして意見や思いを傾聴し運営に活かす取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会の参加を推進し、個々の努力、実績を認め、やりがいの持てる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内の勉強会や外部研修への参加し、チームケアや個々としての知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック毎の会議や勉強会、南北海道グループホーム協議会での交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様からこれまでの生活状況を伺い、不安な事、ご要望等にも耳を傾けながら、その方にあった生活を送って頂ける様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の気持ちや要望を話し合える関係作りに努め、安心して頂ける様心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様がいま必要としている事を話し合いながら見極め、他のサービス利用も含めながらより良い支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様がこれまで生活してきた中で、行っていた事や得意な事を把握し行って頂き、入居者様と職員が共に支え合えるような関係作りに務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様がいつでも面会へ来やすいような環境作りに務め、行事の際には参加を呼びかけし、ご本人様と一緒に過ごして頂ける様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様へご本人の近況等を綴ったお手紙を毎月送らせていただいている。ご自宅へ外泊される際の支援や馴染みの方との関係が途切れないよう努めている。	感染症対策のため面会は自粛しているが、友達や知人とは電話でコミュニケーションを取って馴染みの関係を大切にしている。本人は墓参できないが、家族が送ってくれた墓参時の写真や手紙を見て、これまでの習慣が途切れていないことを確認し、安心している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様、一人一人の性格等を把握し理解に努め、行事や普段の日常生活の中で入居者様同士がより良い関係が築いて頂ける様支援行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、退去後も連絡を入れたり、様子伺いや相談支援に協力し、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の事前データの把握や日頃から会話や見守りの中から希望や意向の把握に努めている。	毎日ノンアルコールビールで晩酌を楽しむ、頻回に歯磨きをする、歌番組が好きなど、些細な事までも把握して今までの生活習慣や好きな事が継続出来る様に努めて理念でもある「自分らしさを大切にし、楽しく自由な生活」の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握、ご自分で使用していた家具等の私物を用いてサービスの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りの中で、できる事できない事の把握に努め、個々の体調や気分に合わせて対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察やカンファレンス等にて課題やケア方法を話し合いご本人様、ご家族様の意向を大切に介護計画を作っている。	担当職員が中心となってモニタリングをし、カンファレンスを行って本人や家族の具体的な要望や意向を反映した介護計画を作成している。状態の変化があった時は検討を加えて現状に合わせた介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化など個別に記録し、職員間をで情報の共有をしながら必要に応じた介護計画に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内での研修会で意見交換等行い、病院受診対応や個々の方の必要に応じた買い物代行等柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しへの参加や近隣保育園園児、ボランティアの方にも来訪して頂き交流を行っている。(現在は新型コロナウイルスの影響でできていない)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望されるかかりつけ医に定期的に受診、往診を受けられるよう支援行っている。	本人と家族が希望するかかりつけ医を優先とし、受診は職員が同行している。協力医の往診は定期的に行われ、更に利用者の状態の変化によって臨機応変に対応している。健康管理は週1回看護師が行い、24時間オンコールの医療体制が築かれ安心して適切な医療が受けられるように支援している。	

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の協力病院と医療連携をとり週1回健康管理指導、看護師と相談や情報の共有をし適切な対応や助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族様に報告し病院関係者へ情報提供や交換、相談を行い関係作りに取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様へ重度化した場合や終末期の在り方について意向を確認し十分に説明を行い方針を共有し病院関係者等と情報交換を行っている。	契約時に終末期ケアや重度化した場合について家族と協力医療機関、事業所が協議して最善のケア方法を定めることを旨とした説明を本人と家族にしている。現在は看取りをしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に応急手当、初期対応が実践でき、知識を深めるため講習、勉強会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中または夜間想定し防災訓練を行い、また災害時のマニュアル等を用い勉強会を行い、非常時の対策を行っている。	火災を想定した避難訓練は年2回実施し、自然災害は消防署やネットから資料を集めて座学をしている。職員はマニュアルを活用して日頃からシミュレーションしている。備蓄品は保存食を含め、運営法人本部で3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、人としての尊厳を理解し言葉かけや対応を工夫している。	羞恥心を伴う排泄介助などは態度を見てさり気なく声かけしたり、他人の目に配慮するなど細心の注意を払ったケアを行っている。居室は、つい立などを利用してプライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を優先し自己決定できるよう支援を行っている。意思疎通が難しい時は表情で確認をしながらできるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしていきたいか、ご本人様の体調や状態に合わせてそれぞれのペースを大切にした支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が気持ちよく過ごせるよう、希望に沿った身だしなみやおしゃれに対する支援を行っている。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを把握し、個々にあった食器を提供している。食器拭きなどのお手伝いをして頂いている。	食事は利用者の嚥下状態や機能に合わせて、とろみ食やきざみ食など形体を工夫している。雛祭りや節分、誕生日の行事食は、ちらし寿司や海苔巻きを作って食事が楽しくなる様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった摂取量を把握し、食事形態を工夫し提供している。水分摂取が困難な方には好みゼリーやとろみ剤等を使用し対応行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。ご本人様の不十分などところのお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し自尊心に配慮した対応、トイレ誘導や汚染の確認等を行っている。	昼夜ともに自立している利用者もいるが、ほとんどの利用者は排泄パターン把握したり、様子を見て声かけや誘導をしている。メーカーの方が講師となって排泄用品の正しい使い方や体型、排泄量に合わせた適切な選び方を勉強している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のメニューにより野菜を多く取り入れ、体操や歩行運動にて予防に取り組み、また個々の排泄パターンを把握し便秘時には主治医より処方された薬を服用し排泄コントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせ気持ちよく入浴できるよう支援行っている。	毎日浴槽に湯を入れて、希望すればいつでも入浴できる様に準備している。週に複数回ゆっくりと湯船に浸かり、リラックスすると自然に歌も出てくる。入浴後はスポーツドリンクを飲んで水分補給もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に希望に沿った対応にて安心して過ごして頂ける様支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等の把握をし、職員全員が服薬助に責任を持ち、服薬内容の変化の際には内容確認に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が希望する家事の役割等を積極的に行えるよう支援行っている。また、行事、お誕生会を楽しんで頂けるよう支援している。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出する機会を持てていないが、落ち着いた際には外出できるように支援を行っていく。	感染症対策のため外出は自粛しているが、事業所内でお汁粉やケーキなどでお茶会をする機会を多く確保し、楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方が多い為、基本はご家族様管理としております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望を伺いご家族様の生活時間に配慮し、やり取りができるよう支援行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに施設内の装飾を変え、共有の空間には季節ごとの装飾や行事や誕生会の写真を掲示している。遮光、室温調整、換気等を行い快適に過ごしていただける様努めている。	事業所内はお雛様や手作りの小物を利用した装飾をし、ゆっくりと落ち着ける工夫をしている。居間や居室にはたっぷりと陽が入り、温度や湿度も高齢者に合わせて適切に保たれ、居心地よく過ごせる配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間におけるソファ席やテーブル席の配置に気配りし、入居者様同士会話を楽しんだり、一人で過ごしたり、一人一人の思いに添えるような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様に相談し、ご本人様の好みや使い慣れたものを使用して頂き、ご本人様が居心地よく過ごして頂ける様工夫を行っている。	居室にはクローゼットが備え付けられているが、使い慣れた家具やベッドを持ち込み、思い出の品を飾って、安心してゆっくりと寛げる様に一人ひとり個性的な部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様それぞれの「やりたい事」「知りたい事」「できない事」に細かく気をつけ安全に自立した生活が送られるよう支援を行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400308		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム グース 2F		
所在地	函館市花園町24番3号		
自己評価作成日	令和4年2月11日	評価結果市町村受理日	令和4年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400308-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを尊重し、日々の生活を穏やかに自分らしく過ごして頂ける様、スタッフ一同、日々意見を出し合い、相談し支援に取り組んでいます。
ここ2年ほどは新型コロナウイルスの影響で外での行事はできていませんが、落ち着いた際には、年間を通し四季折々の行事を楽しんで頂いたり、町内会の催しもの等に参加させて頂きたいと思っています。
また、健康維持のためリハビリ体操、歩行・立ち上がり運動など行っています。
食事に関しては、当グループホーム関連会社が配食産業の会社であり、ご高齢の方に最適な食生活を提供する事を責務としています。
全道各地に同グループの事業所があり、連携を取り合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者とは職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、個性を尊重し、ご家族様の安心、地域との関わり等を大切にしている。敬愛を重視したサービス向上に努めていけるよう玄関や事務所、フロア内の目の入る所に提示し、スタッフ会議時等にも話し合うようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの関係にて催し物の参加はできていないが、今後落ち着いた際には地域との関わりを大切にしていける。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの際、町内会の役員の方々に避難訓練などに参加して頂き非常時の体制を確認している。(今年度はお手紙にてお知らせしている)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、ご家族様や町内会、地域の方々のご意見やご提案をサービスの向上に繋げている。(新型コロナウイルスの関係で開催できず、運営推進会議議事録として郵送している)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市などで行われている研修等に積極的に参加し、研修内容を職員全員で共有しケアの取り組み、サービス向上に活かしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に拘束かどうかを考え、入居者様の安全において必要と思われる時にはご家族様の同意を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修には、新型コロナウイルスに伴い参加できていないが、日々の申し送りや、会話の時に虐待につながっていないか注意を払い、内部研修やスタッフ会議時に年2回以上は勉強会を行い虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会で学ぶ機会を持ち、必要な方には御家族様と連携し活用し、成年後見人制度を利用している方には後見人方と連携し支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約書等に関する内容を説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の関わりの中から意見や要望を聞き、サービス繁栄に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は職員会議などで検討をし、運営に反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や勉強会の参加を推進し、個々の努力、実績を認め、やりがいの持てる職場環境作りに努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、当ホームの勉強会や外部研修への参加を行い、チームや個々としての知識や技術の向上に努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック毎の会議や勉強会、南北海道グループホーム協議会での交流を図り、サービスの質の向上に努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様、ご本人様からこれまでの生活状況を伺い入居者様にあった支援をおこない安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いや要望を話し合える関係づくりに努め、思いを聞き取り安心して頂けるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様がいま求めている支援を見極め、対応し、必要であればほかのサービスにも繋げていけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が得意なこと、出来る事、出来ない事を見極め見守りにてお手伝いをして頂き職員と入居者様が共に共に支えあえる関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会やご家族様との外出等を支援し、行事の際にはその都度参加を呼びかけ、ご本人様と一緒に過ごして頂けるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、ご家族様へお手紙を送り、ご本人様のご様子をお伝えしている。またご本人様の馴染みの方の面会やその方々との関係を大切にし途切れることのないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様、一人一人の性格を理解し、レクリエーション、行事、また日々の生活生活の中で入居者様同士がより良い関わりが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にもご家族様の来訪があり、これまでの関係性を大切にしている。退去後であっても郵便物などを届けたり近況情報を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の事前のデータ(アセスメント)の把握、日頃からの会話や見守りの中から希望や意向の把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴の把握、お部屋の好みの家具等の私物を用意して頂きサービスの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りの中で、できる、できない事の把握に努め体調変化や気分合わせて関りの対応を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態観察やカンファレンスにて課題やケア方法を話し合い、ご本人様、ご家族様の意向を大切に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や変化など個別に記録し職員間で情報の共有しながら必要に応じた介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内での研修会等で意見交換等行い、病院受診対応や個々の方の必要に応じた買い物代行等柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物への参加や近隣保育園訪問、ボランティアの方にも来訪して頂き交流を行っている。(今年は新型コロナウイルスの影響で出来ない)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望されるかかりつけ医に定期的に受診、往診を受けられるよう支援を行っている。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院と医療連携をとり、週1回健康管理指導看護師と情報の共有をとっている。入居者が適切な受診や看護を受けられるよう支援行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族様に報告し、病院関係者へは情報提供、相談を行い関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、ご家族様へ重度化、終末期の意向を確認の上、十分な説明を確認行い、方針を共有し病院関係者と情報交換等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の応急手当、初期対応を行えるよう講習、勉強会へ参加し知識を深める。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中または夜間想定し防災訓練を行い、また災害時のマニュアル等を用い勉強会を行い、非常時の対策を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様、一人一人の気持ちや人格を尊重し言葉かけに工夫し対応行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を優先し、自己決定できるよう支援行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日どのように過ごしたいのか、ご本人様の声に耳を傾け、それぞれのペースを大切に支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が気持ちよく良く過ごせるように希望の合った身だしなみやおしゃれに対する支援を行っている		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好み等を把握し、個々に合った食事を提供している。個々の能力に応じて盛り付けや食器 拭きなどのお手伝いをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった摂取量を把握し、食事形態等工夫し提供している。水分摂取が困難な方には、好みのゼリーや、トロミ剤等を使用し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、夕食後には義歯を洗浄剤につけ対応している。ご本人様の不十分な部分のお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した対応、トイレ誘導や汚染の確認を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士のメニューにより野菜を多く取り入れ、体操や歩行運動にて予防に取り組み、また個々の排泄パターンを把握し便秘時には主治医より処方された薬を服用し排泄コントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望やタイミングに合わせて、気持ちよく入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に希望に沿った対応にて、安心して過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等を把握をし、職員全員が服薬介助に責任を持ち、服薬内容の変化の際には内容確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様が希望する家事の役割等を積極的に行えるよう支援している。また、行事、お誕生日会、散歩等 楽しんで頂けるよう支援している。		

ふれあいの里グループホーム グース

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナウイルスの影響で外出する機会を持てていないが、コロナが落ち着いた際には散歩に出掛けたりする支援を行っていく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の管理能力に応じお小遣いを所持される入居者様もありますが、基本、ご家族様管理としております。また、金庫にお預かりし、必要な時に自由に使える支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により、スタッフが電話をかけ、内容をお伝えしたり、かかってきた電話にてお話して頂いている。手紙が書ける様支援しており、届いた手紙はご本人様にお渡しし確認して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに施設内の装飾を変え共有の空間には季節ごとの装飾や行事や誕生会の写真を掲示している。遮光、室温調節、換気等を行い快適に過ごして頂ける様務めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士交流が図れるよう、食卓テーブルやソファなどの位置を考慮し、一人一人のの思いに沿うような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様に相談し、ご本人様の好みや使い慣れたものを使用頂き、ご本人様が居心地よく過ごして頂ける様工夫行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の能力に応じたの職員統一した支援を行っている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームグース

作成日：令和 4年 3月 24日

市町村受理日：令和 4年 3月 24日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年6回ホーム内にて行っていた運営推進会議を書面にて開催させて頂いていたが、事業所の現状報告だけではなく、いろいろな意見を聞けるようにするとより良いものが出来る。	書面開催でも参加される方の意見や疑問などを吸い上げることができるようにしていきたい。会話をできるように、書面の内容の中でテーマや事業所側からの質問等を投げかける。返答や意見を頂くことでサービスの向上に繋げていきたい。	・書面の内容の中にこちらの聞きたいことを何個か載せてお返事を頂けるよう返信用封筒を同封する。意見を頂いた内容は次回の書面開催の時に伝えさせていただく。 ・包括支援センターの方にも協力していただける様声掛けをしていく。	6ヶ月
2	6	3ヶ月ごとに不適切ケア防止委員会を行い、身体拘束の勉強会等の取組を行い身体拘束をしないケアの向上に努めている事を運営推進会議の報告事項に載せて取組をしている事をご家族や地域の方達に知ってもらう。	定期的に不適切ケア防止委員会や勉強会を行っていることをご家族様や地域の方たちに伝え、意見を頂くことでご家族様の不安の軽減や職員の意識向上にも繋がる。	・不適切ケア防止委員会が3ヶ月に一度開催し身体拘束について話し合い、職員間でも身体拘束や虐待についての勉強会を定期的に行っている事を運営推進会議の時にご家族や地域の方たちに伝えていく。 ・参加される方の意見やアイデアを頂く。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。